

様式第2号（第3条、第7条及び第8条関係）

事業計画書（実績書）

令和3年（2月 / 日）

団体名 タンデムを楽しむ会

<p>事業の目的</p>	<p>1. コロナ禍において、特に障害のある人や高齢者は外出自粛による運動不足、また人との交流機会が減少している。 この状態を緩和するため、タンデム自転車や車イス、ハンドサイクルなど多様な運動器具を活用し、自然豊かな里山の道をみんなで楽しく走れる機会をつくる。</p> <p>2. 密を避け、普段ひとりでは走行する機会が少ない綾部・上林の公道を、障がいのある人もない人も、自ら身体を動かして走る喜びを体感するとともに、スポーツを通じてふれ合い、交流を深める。 吹く風に秋を感じ、水源の里に更なる親しみを感じてもらう。</p>
<p>事業の名称</p>	<p>みんなでコロナをのりこえよう 「思い思いに楽しく走ろう里山の道」</p>
<p>事業費 (市補助金)</p>	<p>115,068円 (90,000円)</p>
<p>補助金の使途</p>	<p>事業の運営費用</p>
<p>事業の実施期日</p>	<p>2021年11月6日（土） * 9月25日開催予定を延期した</p>
<p>事業の実施場所</p>	<p>綾部市睦寄町 二王公園の周辺道路（府道1号～草壁公民館折返）</p>
<p>事業の概要</p>	<p>1. 事業参加の車種 (1) タンデム7台（二人乗り自転車）後部座席に視覚障害者乗車 (2) 車イス 普通の車イス（自走）（後ろから押してもらう人） 電動の車イス 競技用の車イス (3) ハンドサイクル3台 肢体不自由の人が、座席に座り、手でハンドルを回して走行する。車イスに装着できる。 様々な車種を使い、公道を安全に走る。交通ルールを守り公道走行を通して、車、歩行者、自転車等との共生社会をめざす。</p> <p>2. 参加人員 60人（ガイドヘルパー、スタッフ含む） 1) タンデム24名（別紙 パイロットとコーパイロット組合表） 2) ハンドサイクル 3名 3) 車イス 3名 4) 交流参加 10名</p> <p>3. 走行コース 二王公園発着（別紙 コース図参照） スタート～府道1号～上市場右折～草壁公民館（休憩・草壁川のせせらぎを聴く）折返し～府市場左折～ゴール *安全対策 府道1号上市場の右折横断箇所に立哨。（身障協会） ハンドサイクルの取付調整（京都サイクリング協会）</p>

	<p style="text-align: center;">タンDEM自転車メカニック stokedサイクル</p> <p>4. 休憩は芝生広場、山の家で行った。草壁公民館（折返し）では休憩所を設け、飲み物と菓子を準備した。トイレも開放された。</p> <p>5. 昼頃に地元特産「とち大福」を提供し、豊かな自然を味わってもらった。大変好評だった。</p> <p>6. 昼食は、希望者は「あやべ温泉弁当」を申込み、50食発注した。</p> <p>7. 新型コロナ感染防止対策及び救護対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニティナース鍋島さんに出役依頼した 2) 参加者全員、受付で体温測定。 3) 参加者及びスタッフはマスク着用（走行中も） 4) 手指の消毒をこまめに行う。ハンドルの消毒を交代の都度行う。 <p>8. 全体総括</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 奥上林自治会連合会、草壁自治会、上林駐在所、京都サイクリング協会、綾部市身体障害者協会、緑土の協力・支援により安全、円滑に運営が出来た。 2) 受付、検温、参加費徴収、草壁公民館休憩所対応、とち大福配布、弁当配布、湯茶接待等の諸業務はGサポ（生活支援サポーター）有志の応援があり、細かい配慮のある運営が出来た。 3) タンDEMサイクリングは7年間、各地で開催しているが、ハンドサイクルや車イスと一緒に公道を走るのは初めてだった。それぞれ思い思いに楽しみながら休憩所や発着会場では会話し、交流する風景がみられた。このように異種の乗り物が一緒に走るイベントは数少ないと思われ、継続開催を検討する。 4) 発着会場、草壁休憩所で会話が弾んだ。久し振りの対面、アウトドアの開放感が心身に心地よい影響を与えた。 また80歳以上の視覚障害のある人や、視覚、聴覚の重複障害がある人が緩い上りのある3kmを完走された。なお聴覚障害のある人に「右に曲がる、止まる」などの合図を伝えるため、「振動による合図」の試作器具を試行した。 5) 倉庫に長年眠っていた所有の「ハンドサイクル」で久し振りに公道を走れた喜びを語った人、初めて乗ったハンドサイクルで3kmを完走された人、途中失明で閉じこもりがちの人が「外に出るきっかけをつかめた」と話された事などが印象に残った。
補助金の効果（成果）	<p>障害のある人や、高齢者が集まって運動や交流する機会は少ない。コロナ禍では更に厳しい状況下、空気のきれいな、そして密にならず、安全に走ることが出来る上林ならではの事業は、参加者に元気と希望をもたらした。</p> <p>地元の人にもお手伝いを願い、協働することで少しでも活性化に資することが出来た。</p>

収支予算書(計算書)

令和3年(2月)1日

団体名 タンDEMを楽しむ会

(単位:円)

収入の部	区分	予算額	収入済額	明細
	市補助金	90,000	90,000	
	参加料	21,000	21,000	500円/人×42人
	主催者より支出	5,000	4,068	
合計	116,000	115,068		
支出の部	区分	予算額	支出済額	明細
	謝金	14,000	14,000	タンDEM、ハンドサイクル 指導謝金 3人×3,000 メカニック謝金 5,000
	旅費	18,000	18,000	指導スタッフ旅費(有料道路 路通行料他)3人×1,000 スタッフ旅費(公共交通料 金相当)1,000×延べ15人
	諸費	84,000	83,068	・ハンドサイクル運搬費 (京都から) 5,000 ・タンDEM運搬費 3,574 ・運搬手当 1,000×2人 ・送迎バスレンタル及びガ ソリン代 17,590 ・運転代行料 9,350 ・特産もてなし材料代 とち大福 9,100 ・施設使用料 5,000 ・休憩所飲料代 5,012 ・事務用品等 7,636 ・郵送料 1,926 ・指導スタッフ等弁当代 @500×7人 ・E-BIKEレンタル料 1,500 ・タンDEM安全点検整備 11,880
合計	116,000	115,068		
差引	0	0		